

特集 考古博物館・歴史博物館

原始時代から昭和の初めまで

昔の市川へ

タイムスリップしよう!

市川の半分がまだ海だった頃までさかのぼり、太古の時代や懐かしい時代へと連れて行く考古博物館と歴史博物館。このゴールデンウィークは日常のけん燥を離れて、私たちが暮らす街の「時間旅行」を楽しみませんか。

考古博物館

先土器(旧石器)時代から平安時代までを紹介

市内には、姥山、曾谷、堀之内の3大貝塚、下総国分僧寺や尼寺跡を始めとする、先土器(旧石器)時代から平安時代までの重要な遺跡があります。それらの遺跡から発見された土器や瓦などの豊富な出土品を展示し、当時の暮らしも再現しています。



▲いろいろな形の縄文土器



▲堀之内貝塚から出土した「急須」や「やかん」のような形の縄文土器



▲考古博物館学芸員・領塚

イカも食べていた縄文人

国の史跡に指定されている堀之内貝塚からは、意外にもコウイカの甲羅がたくさん出土し、干物にすることもあったと考えられています。そうした暮らしの一面を、立体的なジ

時間旅行に出掛ける前に 考古博物館と歴史博物館には、驚きや感動、発見がいっぱい。その楽しみがふくらむように、それぞれの博物館の学芸員が見どころの一部を案内します。



広報いちかわ案内役 こいこげん

行徳の歴史を塗り替えた海苔作り

江戸時代から続いていた塩作りに代わり、明治時代から始まった行徳での海苔作りの当時の様子を再現しています。人も船も実物大で、作り物とは思わず驚く見学者も。すべてが手作業で、海の姿も今とは違い、当時の苦労や知恵を伺い知ることが出来ます。



▲歴史博物館学芸員・小泉

歴史博物館

鎌倉時代からの歴史や文化を紹介

考古博物館の後を受け、中世以降にはどんな暮らしがあったのかを復元しています。海辺、水路と陸路、台地、郷土に分類した各コーナーを巡ると、市川がどのように発展していったのかが分かります。



と陸路のコーナーの床にしているのは、江戸時代のであった道や川の概略。



辻切りの大蛇は堀之内地区にもあった!

堀之内地区に伝えられている辻切りの大蛇は、歴史博物館に納められます。元々1体しか作られず、国府台より3日遅れの1月20日、毎年、新しい大蛇が展示室の木に上げられます。作り方も国府台の大蛇とは違い、表情にも地域の特色が出ています。



考古博物館(堀之内2-26-1) ☎373-2202



歴史博物館(堀之内2-27-1) ☎373-6351

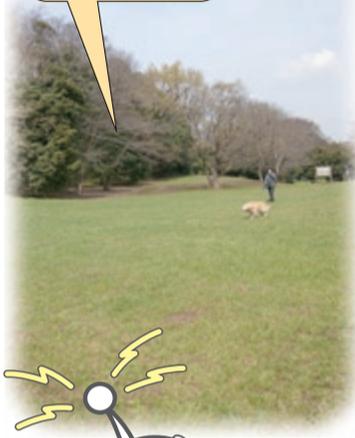
利用時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日(月曜日が祝・休日の場合は火曜日)、祝日、年末年始 ※ただし、5月3日～6日、11月3日は臨時開館。

駐車場(両館共用) 一般車30台、身障者など優先1台 ※中・大型バスは利用不可。



堀之内貝塚の東側は芝生の広場で、お弁当を広げることもできるよ。ただし、食べた後のごみは各自で持ち帰ってね。



千葉県には全国の3分の1を占める約700カ所の貝塚があり、そのうちの54カ所が市内北部の台地上に。全国的に見ても密度が高く、たくさんの縄文村があったことが分かります。大量の貝殻は、豊かな海の幸をうまく取り入れて生活していた証です。

市川は貝塚の密集地

堀之内貝塚



館内に入ってすぐに目に飛び込んできると、巨大な骨は、5千年くらい前のコクジラです。JR総武線の市川駅と本八幡駅の間くらいにあるNTT市川支店の地下4mから、たくさんの貝殻と共に発見されました。その昔、市川の南半分は海でしたから、海岸に死骸が打ち寄せられたのかも知れません。

クジラが市内を泳いでいた?



誰のウンチ?
よく見ると、消化されなかった魚の骨が。曾谷貝塚から出てきたこのウンチ、大きくもなく、小さくもないけれど…。考古博物館1階の階段登り口で確かめてみて。



の一場面を、立体的なジオラマで再現しています。そこで煮炊きをしている縄文人の姿も、貝塚から発見された人骨を元にしたもの。過酷な労働をしたり、固い物を食べたりしていましたから、手足の筋肉が発達し、顔が角張っているのが特徴です。

合同展

開催中

歴史博物館

「昔の暮らし
コーナー」

博物館友の会

「市川の文学碑
～拓本と表装」

家族の会話が弾むひと昔前の暮らしの道具



氷で冷やす冷蔵庫、手で回す洗濯器、炭火を入れて使うアイロンやこたつ、野菜を運ぶ牛に履かせていたわらじなど、昭和の初期から30年代ごろまで使われていた暮らしの道具を集めました。子どもたちにとっては初めてお目に掛かる物、年配

手回し洗濯器



の方には懐かしい物ばかり。おじいちゃん、おばあちゃんの説明を、孫が熱心に聞いているといった微笑ましい光景も見られ、親子3代で楽しめます。

市川の文学碑が一目で分かる拓本と表装

拓本に採って掛け軸に仕上げることで、文学碑を別の形で保存することができます。拓本の採り方と道具も展示していますが、ゴールデンウィークと期間中の土曜日、日曜日は、博物館友の会の会員から詳しく説明してもらうこともできます。



田の草取りが立ってできるなんて、まさに発明。水車の近くにあるから探してね。



◀台地の人々の生活コーナーには、農業用の水車や画期的な農耕具も。

▶水路と陸描かれていた交通路であ



生活を支えていた土間
食事を作って食べた後、むしろや俵を作ったり。畑を耕して生活していた台地の人々にとって、土間とそれに続く板の間は、家の中で重要な場所でした。ここも、大町にあった民家の一部を移築して復元されていて、中に入るとその頃の暮らしが実感できます。